

感染症情報 7月30日～8月12日

7月30日から8月5日分

府下小児科198医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	850例(堺市	40例)
②ヘルパンギーナ	506例(堺市	25例)
③RSウイルス感染症	413例(堺市	62例)
④溶連菌感染症	333例(堺市	54例)
⑤手足口病	286例(堺市	13例)

府下インフルエンザ定点304医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	10例(堺市	8例)
---------	--------	-----

8月6日から12日分

府下小児科198医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	567例(堺市	35例)
②RSウイルス感染症	392例(堺市	42例)
③ヘルパンギーナ	332例(堺市	15例)
④溶連菌感染症	216例(堺市	32例)
⑤手足口病	181例(堺市	7例)

府下インフルエンザ定点304医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	11例(堺市	2例)
---------	--------	-----

2週分をまとめて報告する。

感染症報告数は7月30日から8月5日までがその前週より7.1%増の2,726件で、8月6日から12日までが祝日(山の日)を挟んだ影響もあり、28.9%減の1,937件であった。

RSウイルスが7月23日から29日までの府下の集計で第4位から、週を重ねて第3位、第2位と上がってきている。堺市では7月23日から29日が42例、その後62例、42例で、当科周囲でも依然多い。ヘルパンギーナは府下では7月30日から8月5日の週にピークを迎えたようであるが、当科周囲ではまだ流行っていない。手足口病も当科周囲では府下ほどには流行っていない。

麻疹、風疹の報告はなかった。